

郷土の花火「短冊貼り付けて」

馬瀬小児童、尺玉に願い

短冊に願いをつづった児童ら＝下呂市馬瀬中切、馬瀬小学校



9月に下呂市馬瀬中切で開かれる花火大会「馬瀬川大花火」で、馬瀬小学校(同所)の児童が願い事を書いた短冊を貼った尺玉が打ち上げられる。17日には、児童が短冊を実行委員に手渡した。(服部潤)

9月打ち上げ 実行委に手渡す

地元住民でつくる実行委員会が主催する花火大会で、下呂の夏を締めくくるイベントとして、市内外から多くの観客が訪れる。

願い事の短冊を貼った尺玉を打ち上げる取り組みは、地域の行事に関わり、地域を誇りに感じてもらおうと毎年開催。実行委員会と打ち上げを担当する高木煙火(大垣市)が短冊を尺玉の表面に貼り付け、夜空へと打ち上げられる。

この日、全校集会で、36人の児童のほか、教職員らが願い事を書

いた短冊約50枚が、実行委員のメンバーに手渡された。短冊には「大工になれますように」「やさしいほいくし」といったさまざまな思いが記されていた。

「お金がほしい」と書いた6年辻海夏さんは「馬瀬地域全てを買ってコンビニやバローなどの店を開きたい」と地域を活気付ける願いを込めた。今年の「馬瀬川大花火」は9月12日午後7時30分からで、約千発の花火が打ち上げられ



児童が思い思いの願いを書いた短冊